★学校教育目標		○自主・自律の精神を養おう ○思いやりのある豊かな心を育てよう ○心身ともに健康な身体をつくろう		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）				中学校の3年間は子どもたちの「幸せの基盤」をつくる大切な時と考える。その3年間を支える学校として、日野市第4次学校教育基本構想に基づき、「Beyond OOO」とのスローガンを掲げ、学校教育目標、目指す学校像（ビジョン）を達成するために以下の4つのプロジェクトに取り組む。	
【目指す児童・生徒像】	*正しい判断力ができる生徒 *自主的に行動できる生徒 *思いやりの心で他につくす生徒 *ひたむきに努力できる生徒				
【目指す学校像】	*安全、安心な学校 *切磋琢磨して成長できる学校 *生徒の活気があふれる学校 *社会の変化に対応できる学校				
【目指す教師像】	*心の教育を実践する教師 *愛情をもって教育にあたる教師 *自ら研鑽できる教師 *保護者、地域等との連携を深め、深基できる教師				

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策				
				評価点	取組指標		評価点			成果指標			
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	プロジェクト「学びの変革」基礎学力の定着と向上	◎生徒の自尊感情・自己肯定感を高めることで、生徒自身が学ぼうとする姿勢を引き出す授業を実践させる。 ◎知識・技能を高める過程で、思考力、判断力、表現力を駆使する授業を模索させる。	①生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるため、教職員が生徒の小さな変化を捉え、賞賛の声掛けを実践する。 ②ユニバーサルデザインの視点を持ち、生徒自身で学習環境を構築できる授業改善を促す。 ③生徒の発言や活動を授業時間の60%以上にし、プレゼンテーションの機会を多くさせる。 ④一人1台端末を効果的に活用させる。 ⑤教育課程を進行していくうえで、指導と評価の一体化、ならびにカリキュラムマネジメントの意識を高くもたせる。	4	4	4	4	4	教職員は、基礎学力の定着と向上を目指した指導と授業改善に日々努力されている。またPCを駆使して学びの変革を実施している。多くの生徒に活躍の場をもたせ、自信や意欲向上につなげるとともに、一人一人の個性を伸ばす教育を今後も継続してもらいたい。生徒の小さな変化を捉える具体的な方策を示し周知されると良い方向に向かうと考えられる。	教職員が生徒一人一人の個性や課題に合わせた指導を行うことで、自尊感情・自己肯定感を少しずつ高めることができている。 教職員全員が学習者用端末やICTをさらに活用するために研修を重ねる。個別最適な学び・協働的な学習の計画的に実施に向け、学習意欲を高め、課題を解決する力を育み、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていく。			
	プロジェクト「教職員の挑戦」働き方改革の推進	◎職務に対する優先順位を意識させる。 ◎在校等時間の縮減に取り組ませる。	①会議や研修に端末を使用し、ペーパーレスを図る。 ②学校からの情報発信に学校ホームページ、学級、学校だより、Home&Schoolを効果的に運用する。 ③水曜日を定時退勤推奨日とする。 ④部活動顧問を複数とし、平日休日ともに負担を軽減する体制をとる。 ⑤教職員に応じた職務の平準化に取り組む。	4	3	2	1	4	3	2	1	教職員は授業や生徒対応だけでなく多業務で忙しく改革が必要である。PC端末等の活用で少しでも負担軽減になり、居心地の良い働きやすい職場になることを願っている。部活動に関しては、地域や外部人材活用を検討する機会を学校運営協議会で協議する場を設け、今後の発展に協力していく。	ICTツールの活用で、事務作業の効率化を図れている。教職員の在校等時間は年々縮減しているが、長時間勤務が継続している教員もおり、業務の多様化に伴う事務作業の負担増などの課題が改善されていない点もある。また職務の平準化も促進させていく。部活動は方策を遂行できている。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	プロジェクト「学びの変革」特別支援教育の推進	◎自尊感情・自己肯定感を高める指導体制を構築させる。 ◎授業のUD化を推進させる。	①生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるため、教職員が生徒の小さな変化を捉え、賞賛の声掛けを実践する。 ②学校行事等で特別支援学級への配慮を盛り込ませ、通常学級との日常的な交流を有用な機会とさせる。 ③校内特別支援委員会を機能させ、SCやSSWとの連携の強化を図る。 ④リソースルーム、ステップ教室との連携をとり、生徒の特性に応じた指導を実践させる。 ⑤「ひのスタンダード」を徹底する。	4	3	2	1	4	3	2	1	特別支援クラス生徒の特性に合わせた声かけや授業の取組、自尊感情を高める指導がされている。通常学級と一緒にできる活動は成長過程で重要な役割を担っている。校内連携だけでなく、児童館など地域とさらに連携し、生徒情報交換もしていけるとよい。選べる学校制度で年々生徒数が増加しているのは、手厚い教育体制が徹底されているからだと思う。	校内特別支援委員会を機能させることにより、学校全体で特別支援教育を推進し、全ての生徒が自尊感情・自己肯定感を高めながら安心して学べる環境づくりをしてきた。校内特別支援委員会参加者間で連携を密にとり、情報共有をすることで、生徒の特性に応じた指導を試みているので、本校の実践の形を継続していくことが重要である。
	プロジェクト「安心できる学校」生活指導の充実	◎対話と傾聴、共感を基本に、多様性への理解を高め、人権に配慮した指導を実践させる。	①対話と傾聴を基本にして、少しの変化も見逃さず賞賛するなど、生徒の自尊感情・自己肯定感を高めるとともに、予防的生活指導を実践させる。 ②アンガーマネジメントの手法を取り入れる。 ③「いじめ防止対応チーム」を機能させる。 ④「不登校対応チーム（FCT）」を機能させる。 ⑤あらゆる差別、偏見をなくす指導体制を構築する。	4	3	2	1	4	3	2	1	教職員の地道な指導により、小さな気づきこそあっても、問題にならないいじめは無いと見られる。地域からも見守っていきたい。穏やかな生徒が多く、休み時間も楽しそうにしている。自分が自信がもてない生徒に自分を大切にすること、他人を認めることを指導してほしい。	キャリア教育の充実を目指す取組は、生徒の将来設計や自己理解を深める上で非常に重要な役割を果たしてきた。生徒の自己理解の深化や社会性、コミュニケーション能力の育成等、取組の効果を最大限引き出すために、学校・家庭・地域社会が一体となり、より効果的なキャリア教育を推進していく体制を構築する。
社会と未来に関き、みんなで作る	プロジェクト「自身の道を拓く」キャリア教育の充実	◎義務教育終了後、社会へ出るための準備活動を実践する。	①進路選択だけに偏らない、将来の見通しのもてる指導を推進する。 ②小学校と連携し、9年間の繋がりを重視させる。 ③有識者を積極的に招聘し、来校までのマネジメントを行う。 ④探究的な学びを充実させるとともに、生徒の表現力・発信力を高めるためにプレゼンテーションの機会を多くつくらせる。 ⑤キャリア教育のまとめとして学習発表会を実施する。	4	3	2	1	4	3	2	1	通常授業でも生徒たちは積極的に発言し表現力を高め、グループ討議の発表等もきちんとしてきている。進路は様々な選択ができることを指導していただけたら生徒の幅広い視野が広がるといふことを。職場体験をはじめ、何かに出会うきっかけを学校が生徒に掴ませ、さらに充実させてもらえると自身の道を切り拓いていく一歩が進んでいくと思う。	キャリア教育の充実を目指す取組は、生徒の将来設計や自己理解を深める上で非常に重要な役割を果たしてきた。生徒の自己理解の深化や社会性、コミュニケーション能力の育成等、取組の効果を最大限引き出すために、学校・家庭・地域社会が一体となり、より効果的なキャリア教育を推進していく体制を構築する。
	プロジェクト「自身の道を拓く」特色ある教育活動の充実	◎学校2020レガシーを浸透させる。	①アスリートを積極的に招聘し、講演や指導実践から、生徒の生涯スポーツの基盤づくりになるような機会をつくる。 ②スポーツメンタルコーチを講師に招聘した講演を通し、生徒同士のレジリエンスと教職員のコーチング技術を向上させる。 ③インクルーシブに特化した活動を年に数回行わせる。 ④学校ホームページで学校の取り組みを積極的に発信する。	4	3	2	1	4	3	2	1	学校2020レガシーは特色ある教育活動として充実している。スポーツを通して気づくもの、アスリートから学ぶことも多く、その後の人生に大いに役立つと思う。今後も通常の授業とは異なる経験をたくさんしてほしい。学校のホームページは大変楽しみにしている。忙しい中でも、さらなる工夫を継続していくことを期待する。	誰もが生き生きと活動できる特色ある教育活動となった。また、体育祭・合唱祭は生徒の主体性を重視した活動となり、生徒自身の満足度も高かった。また行事を活用したインクルーシブ教育に取り組むこともできている。学校2020レガシー教育の理念の浸透と、生徒がより主体的に活動できるように工夫・支援をしていく。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。